

1. はじめに

最近、キイジョウロウホトトギスに関する問い合わせが多く寄せられ、地域の特産品として、観光資源として期待されている。ここでは、キイジョウロウホトトギスについて、栽培のポイント、各地での取り組み事例について紹介します。

2. キイジョウロウホトトギスとは

日本の特産で、紀伊半島中南部に自生し、深山のやや湿った岩壁に垂れ下がるように生育しています。自生地は、①山に囲まれ、日照時間が短い、②霧が多く、空気中の湿度が高いところです。キイジョウロウホトトギスは、絶滅危惧Ⅱ類に指定され、保護が求められている。

3. 栽培のポイント

極めて環境に敏感であるため、栽培は自生地の環境に近い地域では比較的容易ですが、地域によっては非常に難しくなります。

●ポイント

1) 空気中の湿度は高いが、水はけが良く、地下部が加湿にならない風通しの良いところを選びます。

2) 葉焼けを防ぐため、梅雨以降、70%以上の遮光を行います。但し、開花のためには、6月まで充分、日光に当てる必要があります。

3) 肥料のやり過ぎは避けましょう

4) 生育初期は、ナメクジの防除に努めましょう

4. 各地における取り組み事例

1) 日高郡日高川町

バイオセンター中津では、実生増殖した苗を町内の3~5戸の農家に配布しセンリョウの栽培施設を利用して、試験的に栽培、2010年には約500本の切り花を出荷しています。



写真1 キイジョウロウホトトギスの産品化
左；切り花、右：鉢花

2) 西牟婁郡すさみ町佐本

2000年3月に「キイジョウロウホトトギス生産組合」(約50名)を発足し、切り花や鉢花の産品化に向け、栽培されています。また、この地域では、「キイジョウロウホトトギスの里」として村おこしに取り組み、2002年から毎年、10月の第1土曜日と日曜日にキイジョウロウホトトギスマつりを開催し、2010年には第9回を迎え、年々、多くの参加者で賑わっています。



写真2 キイジョウロウホトトギスの栽培状況



写真3 キイジョウロウホトトギスマつり

3) 東牟婁郡古座川町

この地域では、「花の香りの里づくり」の一環として自生地の保存と特産品の開発を行うため、「古座川キイジョウロウホトトギス愛好会」(会員37名)を発足し、一枚岩周辺の自生地復元等観光資源として期待が高まっています。

(育種部 宮本 芳城)

和歌山県農林水産総合技術センター
農業試験場暖地園芸センターニュース No.37
平成22年7月20日発行
編集・発行 和歌山県農林水産総合技術センター
農業試験場暖地園芸センター
〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724
TEL:0738-23-4005、FAX:0738-22-6903
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm>
印刷所

(この印刷物は再生紙を使用しています)